

第1回施設見学会を行いました。

日本衛星ビジネス協会は8月24日(火)、スカパーJSAT株式会社(以下「スカパーJSAT」)のスカパー東京メディアセンターにて、今年度第1回目となる施設見学会を開催しました。

当日は会員23名が参加し、センター内の設備を見学しました。

見学会では、まず初めにスカパーJSATが行っている、「宇宙・衛星事業」と「有料多チャンネル事業」の2つの事業を両輪とした、通信・放送融合型のユニークなビジネスの概要や、施設内の主要設備についての説明が行われ、その後センター内を見学しました。

現在、スカパーJSATでは、有料多チャンネル事業として、東経128度のJCSAT-3A及び東経124度のJCSAT-4Aを利用した「スカパー!」、東経110度のN-SAT-110を利用した「スカパー!e2」、光ファイバを利用した「スカパー!光」の3つのサービスを展開中です。

また、スカパーJSATは、複数の拠点にて行なっていた衛星への送信業務、放送運行业務などを、大規模災害時のリスクマネジメントとして高い防災性を備えた拠点へ集約することを目的として、2008年8月に「スカパー東京メディアセンター」を竣工させました。現在、同センターでは、2008年10月より開始された「スカパー!」のハイビジョン放送である「スカパー!HD」、及び「スカパー!e2」の番組送出業務やアップリンク業務等を行っており、有料多チャンネルサービスの根幹を担う最重要拠点として、順次その機能を拡大しています。

見学では、本年6月の2010FIFAワールドカップ南アフリカ大会開催時に、使用したスタジオ設備や、衛星へ電波を送信する大型アップリンクアンテナ、画音を圧縮するエンコーダ設備、番組送出事故を防止するために24時間体制で送出状況を監視しているマスターコントロールルーム、大地震が発生した際に建屋への揺れの影響を最小限にとどめるための最新の免震装置などを見てまわりました。

番組が確実に視聴者へ届くまでの過程と、リスク対応のための工夫の数々を見学した会員からは、衛星放送という公共性の高い事業の継続が、万全の対策のもとに行なわれていることをあらためて実感したとの感想があがりました。

ご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。



スカパー東京メディアセンター



モニタールームでは、24 時間体制でのモニターが行なわれている。